

都市再生整備計画 事後評価シート

大友氏遺跡歴史公園周辺地区

令和 3年 3月

大分県大分市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	大分県	市町村名	大分市	地区名	大友氏遺跡歴史公園周辺地区			面積	212.5 ha			
交付期間	平成29年度～令和2年度	事後評価実施時期	令和2年度	交付対象事業費	814.8	国費率	0.41					
		事業名										
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	地域生活基盤施設(多目的広場整備、大友氏遺跡周辺史跡案内サイン設置、上野歴史散歩道周辺史跡案内サイン設置)、高質空間形成施設(中島錦町線修景整備、鉄道残存敷整備)									
		提案事業	地域創造支援事業(上野歴史散歩道散策ガイドマップ、大友氏館庭園整備見学ツアー、地域資源活用人材育成事業)、事業活用調査(事業効果分析調査)									
	当初計画から削除した事業	事業名			削除/追加の理由		削除/追加による目標、指標、数値目標への影響					
		基幹事業	多目的広場整備			旧万寿寺地区に多目的広場を整備する想定だったが、当地については、大友氏遺跡の中心となる大友氏遺跡の復元・整備の方向性がある程度決まった後に、方向性を合わせて着手することが望ましいと判断したため。	「大友氏遺跡への来場者数」にマイナスの影響を与えたが、同時に道路事業や地域生活基盤施設等の各種事業を追加したため、総合では「大友氏遺跡への来場者数」は上方修正された。					
	新たに追加した事業	基幹事業	道路(市道上野2号線歩道改築)、地域生活基盤施設(久太本線鉄道残存敷多目的広場整備)、高質空間形成施設(芸短周辺の歩道照明整備)			関連事業との連携で図る中で、本計画のまちづくり目標との整合性があること、事業効果発現への寄与が期待できることから、都市再生整備計画事業として追加した。	計画期間の変更やヒアリング結果を踏まえて、「大友氏遺跡への来場者数」の目標値を上方修正するとともに、新たな指標として「歩行者通行量」を追加した。					
		提案事業	地域創造支援事業(大友氏遺跡歴史公園庭園公開イベント、サイクルステーション整備)									
	交付期間の変更	当初	平成29年度～令和3年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		交付期間を短縮しても当初の計画と同様の事業効果が得られることから、指標、数値目標へは影響を与えなかった。						
		変更	平成29年度～令和2年度									
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		従前値	目標値	数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定期間		
	指標1	大友氏遺跡への来場者数	人/年	9,149人	H26	18,490人	R2	24,663人(H30)	18,820人(R1)	○ あり ● なし	令和元年度の大友氏遺跡への来場者数は18,820人となっており、目標値の18,490人を上回っている。本事業の基幹事業である「中島錦町線修景整備」や「鉄道残存敷整備」の実施において、城址公園及び大分駅から大友氏遺跡へ向遊する導線の確保が成されたこと等が、来場者数増加の効果発現要因になったと考えられる。	令和3年5月頃
	指標2	大友氏遺跡歴史公園周辺地区観光ガイド依頼件数	件/年	20件	H27	100件	R2	107件(H30)	265件(R1)	○ あり ● なし	令和元年度の観光ガイド依頼件数は265件となっており、目標値の100件を上回っている。本事業の基幹事業である「中島錦町線修景整備」や「鉄道残存敷」の実施において、大友氏遺跡へ向遊する導線の確保などにより、大友氏遺跡への来場者数の増加を招いたことから、観光ガイド依頼件数の上昇につながったと考えられる。	令和3年5月頃
	指標3	大友氏に関する認知度	%	44.3%	H27	60.0%	R2	-	50.3%(R2)	△ あり ● なし	令和2年度の大友氏に関する認知度は50.3%となっており、目標値の60.0%を下回っているものの、従前値の44.3%と比べて増加していることから、一定の事業効果が発現しているものと考えられる。1年以内に認知度を60.0%まで上昇させることは困難だが、大友氏遺跡への来場者数や観光ガイド依頼件数は達成度を達成し増加していることから、今後も継続的に大友氏に関する認知度を向上していくものと考えられる。	令和3年5月頃
	指標4	歩行者通行量	人	343,653人	H28	352,150人	R2	311,950人(H30)	313,444人(R1)	△ あり ● なし	基準年度である平成28年度の歩行者通行量は343,653人であったが、平成29年度については306,720人まで落ち込んでいる。ただし、平成29年度以降は求心力のある施設整備やイベントの実施、回遊性を高めるための修景整備などにより、歩行者通行量は増加している。1年以内に歩行者通行量を352,150人まで増加させることは困難だが、今後も継続的に歩行者通行量は増加していくものと考えられる。	令和3年5月頃
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		従前値	目標値	数値		目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定期間		
	その他の数値指標1	-	-	-	-	モニタリング		-	/	-		
	その他の数値指標2	-	-	-	-	評価値		/	/	-		
4)定性的な効果発現状況	ラグビーワールドカップに合わせて祝祭広場で開催したイベントでは、多くの市民や観光客で賑わいをみせ、都市機能の利活用の推進や中心市街地の魅力向上に一定の効果を發揮していると考えられる。											
5)実施過程の評価	実施内容			実施状況			今後の対応方針等					
	モニタリング	計画全体の進捗管理のため、目標年度以外にも指標1, 2, 4の計測を行った。			都市再生整備計画に記載し、実施できた			モニタリングによる指標の下方修正等は行わなかったが、指標の中間計測を行うことで、計画の進捗状況の把握等に繋がった。				
		都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった			実施過程を地域住民と共有することで、都市再生整備の魅力を高めることができた。整備効果を最大限に発揮させるため、他事業においても住民への公開により実施過程を共有するとともに、合意形成活動を図るものとする。				
	住民参加プロセス	○都市計画道路中島錦町線の景観デザインに配慮した歩行等の設計を伴ワークショップを開催した。 ○鉄道残存敷の利活用及び整備に関する説明会を開催した。 ○中島錦町線の景観整備説明会を開催した。			都市再生整備計画に記載し、実施できた			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した				
	持続的なまちづくり体制の構築	-			都市再生整備計画に記載し、実施できた			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した				
		-			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった			-				

様式2-2 地区の概要

大分市中心市街地地区(大分県大分市) 社会資本整備総合交付金の成果概要